



高浜町の児童・生徒の 学力や生活習慣は？

【高浜町教育委員会】

●全体的な傾向

平成26年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語・算数（数学）の学力と学習状況が調査されました。

この調査は、全国的な学力や学習状況を把握・分析し、教育水準の維持向上の観点から教育施策の検証と改善を目的に実施しています。調査内容は、国語や算数・数学の「知識」や「活用」に関することと、学習意欲や生活習慣、学習環境に関することです。

【小学校】国語（A、B）算数（B）は全国並びに福井県の平均正答率を上回っていましたが、算数（A）は福井県の平均をやや下回っていました。

【中学校】国語（A、B）、数学（A、B）とも全国平均の正答率をやや下回り、福井県の平均正答率も下回りました。

その結果から、小学校では習得すべき内容が着実に定着してきており、中学校では学習内容の理解に課題がみられ、基礎基本の習得に一層の努力が必要と言えます。

今回の結果から、授業内容の定着を促進するためには、授業の改善と家庭学習の習慣化が喫緊の課題ととらえ、引き続き家庭への理解と協力や連携を図りながら、今後の学習指導や学習習慣などの改善に努めていきます。

〈小学校〉

国語 A（知識）：ことわざや慣用句、故事成語の意味を理解した使い方に課題がみられます。物語の中の比喩や反復といった表現方法を捉える力に課題がみられます。

国語 B（活用）：本や文章を読み、分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことに課題がみられます。

算数 A（知識）：基準となる数量と他を比較して数量の大小を求めることや、小数の掛算や割算が苦手であったり、簡単な計算操作でも回数が増えるとミスが誘発される傾向がみられます。

算数 B（活用）：情報を整理して、筋道を立てて説明することが苦手で、計算のきまりを基に、違う数値の場合でも工夫して計算する方法を式や言葉を用いて説明する力に課題がみられます。

↓
教科（国語、算数・数学）の傾向

児童・生徒の学力の傾向

〈中学校〉

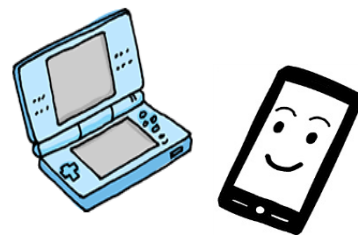
国語 A（知識）：書くこと、読むこと、言語の知識や理解について基本的能力の習得がおおむねできていますが、目的に応じて必要な情報を選択し、複数の情報を組み合わせて正しく判断する力に課題があります。また、目的に沿って話し合い、話し合いの方向を捉える力に課題があります。

国語 B（活用）：複数の資料を読み比べる要旨を捉える力や目的に応じて必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄を相手に伝えるように書くことに苦手の傾向がみられます。

数学 A（知識）・数学 B（活用）：文字を用いて数量の関係や法則を表す式の意味を読み取る力が弱く、方程式を解く計算に課題がみられます。図形の展開図、見取図、立体図の関係性についての知識や理解に課題がみられます。資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に証明する力に課題がみられます。

〈小学校〉

- ・生活面では、**基本的な生活リズム**（朝食・就寝・起床）が身に付いています。
- ・家の人と学校での出来事について会話をしていると肯定的に回答した児童の割合は7割強ですが、**家庭でのコミュニケーションがまだまだ不足**しています。
- ・学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたとき、家の人に相談する児童の割合は約4割ありますが、**3割弱の児童が誰にも相談しないと**回答しています。
- ・地域や社会への関心は薄い傾向があります。反面、**地域行事に参加**したりすることができています。
- ・ほとんどの児童が、家で学校の宿題に取り組んでいますが、**テレビやゲームをする時間が増加傾向**にあり、**読書に親しむ時間がとても短くなっている傾向**がみられます。
- ・普段、1時間以上携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている児童の割合が全国や福井県に比べ**高い傾向**にあります。
- ・自己肯定感が低い傾向があります。反面、将来の夢や目標をしっかりとっています。



〈中学校〉

- ・生活面では、**基本的な生活リズム**（朝食・就寝・起床）が身に付いています。
- ・家の人と学校での出来事について会話する生徒の割合が平成25年度の5割強から7割弱と増加傾向にあり、**家庭でのコミュニケーションが良好に改善**している状況ですが、授業参観や運動会などの**学校行事に参加する家の人**の割合は、福井県や全国の平均よりも低くなっています。
- ・ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験をもつ生徒の割合や、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している生徒の割合は高くなっています。反面、「**自分のよさ**」を認識できていない生徒が約4割みられます。
- ・学校生活で、友達関係など何か悩みを抱えたとき、家の人に相談する生徒の割合は約2割ありますが、**3割弱の生徒が誰にも相談しないと**回答しています。
- ・多くの生徒が**新聞を読まない傾向**がみられます。
- ・普段から学校の授業時間以外で、**読書時間が30分に満たない生徒が7割程度**と多くみられます。
- ・約8割の生徒が、家で学校の宿題に取り組んでいますが、普段の勉強時間が極端に短い傾向にあります。

- ・土曜日や日曜日など**学校が休みの日に、勉強に取り組む時間が1時間に満たない生徒が、約半数**みられます。
- ・テレビを見る時間やゲームをする時間が減少傾向にあります。反面、**携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを長時間（2時間以上）使用している生徒の割合が約4割あり、福井県や全国の平均よりも大きく上回っています。**



高浜町の各学校では、授業改善のために、県教育委員会や町教育委員会とともに、言語活動を多く取り入れるような授業への改善を図っています。学校全体の学力傾向や課題を教師間で共有したり、授業研究を伴う校内研修を行うなどの取組により改善に向かっている項目もあります。しかし、全国や福井県と比べて、大きく差がみられる項目も依然解消改善されていないため、さらに取組を進める必要があります。

また、高浜町の子どもたちは、1日1時間以上テレビやビデオ・DVDを観たり、聞いたり、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている割合が高いのに対して、家や図書館での学習時間や読書時間が短いという特徴がみられます。このようなことから、子どもたちが主体的に学ぶ態度の育成に取り組む必要があります。

高浜町では、児童生徒一人ひとりに**まず基礎的、基本的な知識及び技能を確実に身につけさせ、次にそれらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの能力を育む**とともに、**自ら積極的に学習に取り組む意欲や態度を養う**ように取り組めます。

◎児童生徒をより伸ばすための取組（今後の改善ポイント）

子どもが意見や考えを交流すること

- ★各教科等の学習のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける。
- ★授業の終わりに学習の振り返りを書かせる時間を設定する。
- ★さまざまな考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を工夫する。
- ★学級やグループで目的を設定した話し合う活動を授業に取り入れる。
- ★資料を使って発表ができるように指導を行う。

学びの姿勢や態度につながること

- ☆私語をしないことや、話をしている人の方を向いて聞くなどの学習規律を維持徹底する。
- ☆ノートに自分の考えだけでなく、他の人の考えを踏まえて、なぜそう考えたか、理由を書く習慣付けに取り組む。
- ☆テストやプリントで間違えたところを振り返ることで、どこでつまづいているかを確認する。
- ☆学級やグループで取り組んだり、挑戦したりする課題やテーマを与える。

1人1人に応じたきめ細かな指導

- ★放課後等を利用した補充学習等を行う。

主体的な学びとなる家庭学習を促すこと

- ☆調べたり文書を書いたりする宿題を与え、子ども自ら家庭で学習する習慣をつける。

教師間で課題を共有すること

- ★校内外の研修や研究会に参加し、その成果を積極的に校内で広げ、実践する。
- ★自校採点やその分析をすることで、子どもの課題を明確にし、すぐに手立てを打つ。

児童生徒の学習・生活習慣の状況

- ☆携帯電話やスマートフォン、テレビやゲームの時間を減らし、読書や家族との会話の時間を増やす。

保護者の皆様をお願いしたいこと

全国的に、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどインターネットに依存する子どもたちが多くなっている傾向があり、高浜町においても、生活習慣にかかる質問紙では、テレビやゲーム、携帯電話やスマートフォンなどの使用時間を問う項目において、全国や福井県と比較し使用時間が長くなっている傾向がみられます。家庭では今一度しっかりと、携帯電話等の利用目的や人の迷惑にならない正しい使い方、一日のテレビゲーム等の時間について話し合い、子どもとの理解共有を深めていただくことをお願いします。

課題として、家での勉強時間が30分未満の子どもが多いことや、家や図書館で読書をする時間が小中学校ともに少なくなっています。学習内容をしっかりと身に付けるためには、授業の復習にその日のうちに取り組むなど家庭でも学習時間を確保することが大切です。また、読書は、子どもたちの感性を豊かにし、好奇心や疑問に気づき自ら解決する手がかりを得ることにもつながります。学習・読書習慣の定着に保護者の皆様のご理解とご協力・ご支援をお願いします。

また、自尊感情や自己肯定感にかかる項目においては、高浜町の子どもたちは全国や福井県に比べて低い傾向にあります。子どもたちが人や社会など様々な環境に適応しながら健やかに成長していくためには、心の基盤や“よりどころ”となる自尊感情や自己肯定感を高めることが大切です。学年を問わず、子どもたちのがんばりがみられるときは、良い結果を得ることができなくても、しっかりとほめてあげてください。

今回の調査から、「毎日朝食を食べている」「家の人と学校での出来事について話をしている」「家で学校の宿題をしている」「家での学習時間が長い」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」などと回答した子どもたちの学力が高いことが分かりました。

子どもたちの学力の向上は、生活・学習習慣と相関関係があることから、学校における取組の充実と家庭での良好な生活習慣の確立の両輪によって、図られるものと考えます。

今後も、各学校において、家庭と連携しながら、子どもたちをより伸ばすことができるよう組織的な取組みを推進していきますので、保護者の皆様のご理解とご協力・ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

